

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 リハビリテーション学

科 理学療法学専攻

名 前 宮澤 拓

作成日 2023年9月13日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

本学の教育理念である、「より良く生きる力の源泉となる学際的、統合的な人間理解と社会に認められる力としてのライセンス取得」を念頭に置き、以下の科目を担当している。

- 理学療法評価学
- 生体計測と運動分析
- 運動療法学
- 運動療法学演習
- 整形外科学
- 理学療法画像評価学
- 基礎理学療法学
- 保健医療福祉専門職連携論
- 理学療法総合演習Ⅲ・Ⅳ

これらの科目を担当する中で、総合的な力のある理学療法士の育成を果たしている。

2. 理念（教育に対する考え方）

人の身体に関わる仕事が多数ある中で、理学療法士という職業に興味を持った学生に職業の魅力を伝えることを最も大事にしています。理学療法士であることのアイデンティティはヒトの身体構造と運動のメカニズムについて理解した上で対象者と関わりあうことであり、現場での実績を踏まえそれを伝授すること能力があると自負しています。

自身の研鑽した技術や知識が対象者の回復につながり、その喜びを共有できる感受性が育つことを学生に期待しています。理学療法士が活躍するフィールドは広がる中で、どの分野に進んでも必要とされる人材になれるように、知識・技術の習得をサポートしていきます。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

理学療法学専攻のディプロマポリシーにもあるように、「生涯にわたり自ら学び続ける素養と意思」が理学療法士としての成長につながると考えのもと、医学的な基礎知識を土台にして、自ら考え、推論を立てることで更なる知識を習得する能力の成長を大切にしています。

そのため具体的には、担当する「理学療法評価学」において、障害の捉え方やその客観的な評価方法に関して、方法論の暗記でなくそのメカニズムを理解できるような講義を大切にしていきます。「理学療法評価学演習Ⅰ」では、机上の知識をいかに臨床で対象者を前にして実践するかということを想定することで、臨床に出ても自ら考え知識と技術をブラッシュアップしていける能力の獲得を目指してい

ます。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

担当する科目の授業アンケートでは、資料が分かりやすい、説明が丁寧であったというポジティブな評価を頂いています。また、毎回の授業で行っているレポートや振り返りシートも、記憶の定着に有用であったとい意見も多く、授業内容に対しての一定の学習効果がみられていると考えています。

引き続き毎期の授業アンケート結果を基に、授業内容・方法をブラッシュアップし、より良い授業を展開していきたいと思えます。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

複数学年にわたり授業を担当しているため、授業毎のつながりを意識した教育を実施していきたいと考えている。再度、学科専攻のシラバスを見返し、担当科目の立ち位置を確認し、それまでに何を学んできていて、これから何を学んでいくのかをまとめる。

同時期開講の授業における横のつながりと前後学年における縦のつながりを意識した授業展開を行っていくことが教育上の黙行である。

* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

* TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
(シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。)

- ・シラバス
- ・学生アンケート